

【 質 問 】

No	環境要素等	質問等の内容	【事業者】回答
1(※)	計画	工事の年次計画を見ると、新施設は旧施設を解体してから工事が始まるというように理解しているが、現在の場所に、新施設を設ける案の検討があつてしかるべきだと思うがどうか。施設を置き換えた方が文字通りリプレイスという意味では合理的ではないかと思う。民家等への距離も離隔距離も確保できたため、現計画地を選定している合理的なご説明をいただきたい。	配慮書第1章1.6工事計画の概要に記載のとおり、計画地地下に残存する旧施設（建屋解体済）の地下部を解体した後に、新焼却施設の建設を行う計画です。現施設は、市内のごみ処理を行うために必要なことから、新焼却施設稼働後に停止し、解体する予定です。
2(※)	大気質	光化学オキシダントの評価を見落としているのか、していないのか。	光化学オキシダントは、窒素酸化物等が光反応によりオキシダント化する二次生成物質であるため、焼却施設では評価しないことが一般的であり、直接排出される二酸化硫黄、窒素酸化物、ダイオキシン類、塩化水素、水銀等を対象としています。
3(※)	大気質	建物の高さで予想最高濃度の地点に関して、施設配置1と施設配置2の違いによる最大濃度着地地点の位置の違いはわずかであったとあるが、どこに掲載があるか。	配慮書では他事例を参考に設定しており、最大濃度着地地点の位置変更が生じることが想定されるため、具体的な位置は記載していませんが、施設配置による影響は僅かなものと想定しています。具体的な最大着地地点の位置等については、今後方法書以降の手続きにおいてお示しします。
4(※)	大気質	ダウンドラフト発生時の建物の高さによる影響ということで建物の高さが2.5倍以下だと高濃度が発生すると書いてあるが、38メートルの高さだと2.5倍は114メートルとなり、予想されている想定案の80メートルの煙突でも114メートルにははるかに及ばないということになるが、意図は何か。予測データに基づけば特に大きな影響はないということだと思うが、38メートルでなければいけない理由がよくわからない。予想される焼却炉の方式によるスペックで38メートルは無いといけないと決まっているのかなと思ったが、仮に80メートルの2.5倍以下だと32メートルと6m下げるとなるとここの説明と整合的になるのですがそのあたりはどうか。	配慮書では、影響が最大となるケースとしてダウンドラフトが発生する条件で予測し、その場合でも十分に環境基準を満足することを確認しています。なお、建物高さ38mは他施設を参考に設定したものです。
5(※)	温室効果ガス等	地球温暖化の温室効果ガスの排出の根拠に関しては、4拠点を2拠点到まとめる効果なのか、廃棄物発電がない施設が今あるが、廃棄物発電の運用による影響なのか確認したい。	配慮書第5章P5-54に記載のとおり、4施設体制に比べ、2施設体制は温暖化ガス排出量は増加するものの、廃棄物発電に伴う削減量が増加することから、全体として約1万7千t-CO2が低減すると予測しています。 なお、現時点では、2施設体制における新焼却施設については、環境への影響が最大となる処理方式を想定した燃料使用量、電気購入量を設定しています。
6	土壌	土壌汚染の調査では、何を対象に、どのような方法と規模で行うのか。溶出量のみならず含有量についても調査するか。	土壌汚染対策法に基づき、これまでの土地利用状況を踏まえて汚染のおそれのある物質を対象に調査を行います。その中で、物質により異なりますが溶出量・含有量の調査を行います。なお、具体的な調査方法は、環境対策課と協議のうえで設定します。
7	計画	資料2-p6 右下四角の破線の中 鎧潟と豊栄とを停止する数値的な根拠などはあるか。昨今の状況から考え、ゴミ減量の可能性などあるか。 資料3 p.1-7 ① 「・・・必要であると判断した。」とあるが、数的な試算などはあるか。	前回審査会配布資料P5に記載のとおり、人口減少やごみ分別の普及等によりごみは減少しており、新焼却施設稼働を予定している令和11年度には現ごみ量の約1割減である約20万tとなる見込みです。 新田清掃センターの処理量は約9万tのため、約11万t以上の処理能力を有する新焼却施設を整備することで、豊栄環境センター及び鎧潟クリーンセンターの停止が可能となります。なお、配慮書で設定している処理能力の480 t は処理量に災害等の不確定要素を考慮し設定しています。

No	環境要素等	質問等の内容	【事業者】回答
8	複数項目	「大気質（排ガスの影響）（４）」「騒音（施設稼働時による影響）（２）」「振動（施設稼働時による影響（２））」において、「寄与濃度のみ示した」、「寄与値のみ示した」とあるが、それぞれ、稼働後の予測実測値という理解でよろしいか。それともバックグラウンドに対してプラスされる値を意味しているのか。	配慮書では、市内の大気測定局等の測定結果があるものについては、バックグラウンド値として設定し、寄与値をプラスしていますが、測定結果がない騒音等については、寄与値のみをお示ししています。 今後、準備書においては、周辺環境の測定結果を基に、バックグラウンド値を設定し、寄与値にバックグラウンド値をプラスした、稼働後の予測実測値をお示しする予定です。
9	大気質	景観的にはえんとつの高さは５９メートルが望ましく思うが、差による大気のそれぞれの数値はどのような影響があるかをさらに伺いたい。	配慮書第５章の表５．１．１３に記載のとおり、煙突高さ５９ｍと８０ｍを比較して、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、水銀は同値であり、二酸化窒素の差は０．０００２ppmで環境基準値０．０４ppmの１／２００、ダイオキシン類の差は０．０００３pg-TEQ/m ³ で環境基準０．６pg-TEQ/m ³ の１／２０００と相当に小さな値であることから、ごく僅かな差であり、いずれも重大な影響を生じないものと評価しています。 なお、煙突は景観に与える影響も大きいことから、位置を含めて総合的に検討します。
10	大気質	煙突の高さの差はごく僅かと書かれているが、差がわずかと差が大きいとの数値の差はどの程度をいうのか。	
11	人と自然の触れ合い	施設配置①の場合も②の場合も、既存施設と東側住宅地との緩衝帯となっている「運動公園」の緑地が半減するため、配慮事項の選定（２）の「施設が存在」欄の「人と自然の触れ合い」の項目を選定したことは妥当と思うが、▲「方法書以降で選定する」とした理由ならびに配慮できる事項の見通しについて教えていただきたい。	運動公園については、本施設の建設予定地となることから、人と自然の触れ合いの活動の場としては設定していません。なお、東側住宅地との間には亀田一般廃棄物処理場等が存在しており、新施設建設後も緩衝帯として一定の機能は果たすものと考えています。
12	景観	新設施設の容積が大きく、東側の亀田大月１丁目住宅地に近づくため、住宅地や保育園の住人や利用者の眺望景観に影響を及ぼす可能性は大きいと予測されますが、東側２km離れた桜並木からの写真のみで正しく評価できるのか。	景観については、煙突の認知限界視認距離を含む半径５km以内の主要な眺望点を調査のうえ、現地調査にて建屋及び煙突が視認可能で代表的な３地点を選定し評価しています。亀田大月１丁目地内の大月けやき公園からは、亀田一般廃棄物処理場の壁面によって遮られ視認できないことから、フォトモンタージュは作成していません。 なお、施設近傍の住宅地や道路等からの景観についても、新潟市景観計画における景観形成基準に基づき、周辺環境に調和したものとなるよう計画します。
13	計画	複数案の設定において、災害への備えとあるが、どのような災害を想定しているのか。具体的に示していただきたい。	複数案設定における「災害への備え」とは、新焼却施設の必要性として、既存施設の老朽化が進行することにより地震や浸水等への対応が困難になることや、災害廃棄物処理の対応等からであるとの観点を意図したものです。 新焼却施設では耐震性や耐浸水性を備えたものとし、災害廃棄物の処理を考慮した規模にて整備します。
14	計画	近年、降水量が極端に増えているが、排水管等の管径は以前の降水量等にそったものである。プラント排水の緊急時排出や水質評価の表示はどのようにされるのか。	プラント排水は全て施設内で再利用する無放流方式又は下水道接続を予定しており、雨水ラインに影響することはありません。また、雨水については、排水施設管理者と協議のうえで排水計画を検討します。

（※） 第１回目の審査会（Ｒ３．３．３０）において頂きましたご質問です。後日メールで頂いたご質問と重複している場合は、割愛しております。

【 その他 】

No	環境要素等	その他	【事業者】回答
1	土壌	配慮計画書2-26：土壌図について、凡例に間違いはないかご確認願いたい。特にグライ土壌と表記されている土地は砂丘（あるいは自然堤防、砂州）なので、グライ化しにくいと思われる。	出典とした「20万分の1土地分類基本調査 土壌図」（昭和44年）を確認しましたが、凡例に間違いはありませんでした。
2	計画	ゴミの質にもよると思われるが、ゴミ量と発電量とに、ある程度の相関がとれていたらお示しいただきたい。	ゴミ質にもよりますが、焼却量と発電量は概ね比例関係にあり、ごみを1トン焼却すると600kWh程度の電力が得られます。
3	計画	設計者の選定がこれからの場合には、既存施設と同じ方を選定されれば、既存施設や田舟の里と調和した計画を考えていただけたらと思う。	既存施設の解体時期並びに今後田舟の里を維持していくかについては現在検討中ではありますが、いずれの場合においても、新施設の形態・意匠・色彩は、周辺環境と調和するものとなるよう計画します。
4	大気質	これから数十年使用するので、できればもっと高い煙突の設置を希望する。	<p>配慮書第5章の表5. 1. 13に記載のとおり、煙突高さ59mと80mを比較して、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、水銀は同値であり、二酸化窒素の差は0. 0002ppmで環境基準値0. 04ppmの1/200、ダイオキシン類の差は0. 0003pg-TEQ/m³で環境基準0. 6pg-TEQ/m³の1/2000と相当に小さな値であることから、ごく僅かな差であり、いずれも重大な影響を生じないものと評価しています。</p> <p>なお、煙突は景観に与える影響も大きいことから、位置を含めて総合的に検討します。</p>
5	景観	景観（施設の存在）（5）の2つめの項目で煙突59mのほうがよいとした方針は妥当と思う。	
6	計画	焼却施設が4施設体制から2施設体制に統合されると、これまで以上に、多くの搬入車が新設処理場に入ってくる。それによって、処理場周辺の道路は傷み、騒音も増え、渋滞も起こることは必須である。こうした事にたいして、江南区の対策費や区民への様々な負担が増すのは明らかである。対応策を事前に立てていただきたい。	搬入台数の増加、周辺道路の整備については、地元説明会で地域住民の方からもご意見を頂いています。収集運搬業者と協議のうえ、住宅地附近を通らない搬入ルートを検討するとともに、敷地内の滞留スペース確保等により対応することとしています。また、江南区とも連携し、道路の整備・改修も検討します。 なお、搬出入車両による環境影響評価については、方法書以降の手続きにおいて予測・評価を行います。
7	計画	更新施設の機能・コンセプトとして、地域に役立つ施設としているが、防災拠点すなわち避難所として避難時にのみ活用するのではなく、日常活用できる施設整備をしていただきたい。	現時点では具体の計画は未定ですが、地域住民の皆さまのご意見を伺いながら検討します。
8	計画	施設配置②の玄関が北側（田舟の里側）を向いているのであれば、施設配置①よりも、残された運動公園を有効に利用し、田舟の里の利用者に配慮した配置といえると思う。	現時点は施設計画の詳細は未定ですが、施設利用者に配慮した配置や平面計画を検討します。
9	景観	審査会で示されたフォトモンタージュについて、既存の施設の絵も提示して欲しいと思う。現存の施設を対象とした感覚比較が行えるのが一番説得力のある提示方法と考える。今現在から、この様になります、あるいは変わりませんと伝えることができると思う。 今後の事業説明の折りに配慮いただきたい。 さらに新たなフォトモンタージュの作成と提示に当たっては、いわゆる明視の距離程度で見て自然な大きさに感じるサイズの像、絵の作成を望む。	審査会における説明資料では省略しましたが、配慮書では既存施設の写真を提示しています。今後の審査会において、分かりやすい資料となるよう配慮します。
10	放射線の量	・K-40などの天然放射性物質の濃縮についてはどう考えるか。 ・放射性物質が誤ってごみに混入した場合の対応はどう考えるか。測定装置(簡易型サーベイメーターなど)を用意しておけば以後の対応が容易となると考えるがいかがか。	対象施設に係る工事及び稼働において、現施設の稼働の状況から周辺環境に影響を及ぼすおそれのある放射性物質の濃縮、混入は想定されないため、配慮事項として選定していません。 想定外の事案が発生した場合には、サーベイメーターの利用も含め、測定方法について検討を行います。